

## 日本国環境省 米国環境保護庁 環境政策対話 共同声明

2015年8月24日

日本、東京

8月24日、アメリカ合衆国環境保護庁(EPA)ジーナ・マッカーシー長官と、日本国環境省望月義夫大臣がハイレベル二国間対話のために東京で面会しました。対話の結論として、マッカーシー長官と望月大臣は、水銀、気候変動、地域の 대기環境、環境教育、除染、子どもの健康と環境、環境影響評価に係る、二国間の地域的環境協力を強化するとの共同の声明を発表しました。この成果は、1975年に締結された日米環境保護協力協定に基づいた、40年にわたる日米両国間の環境問題に関する協力の歴史のうえに築かれるものです。米国環境保護庁と日本国環境省は下記の通り、環境協力体制を構築し推し進めていくことを約束しました。

### 水銀

水銀に関する水俣条約は、水俣病の重要な教訓を踏まえて、水銀のライフサイクル全体にわたってリスクを管理することを目的としています。安倍首相が4月にワシントンを訪れた際に、EPAと環境省は地球環境ファシリティ(GEF)と協働した協力の可能性を追求することで、水銀に関する水俣条約の目的に貢献するために取り組むことを約束しました。これは発展途上国の条約実施への支援となるでしょう。

EPAと環境省は水俣条約の実施をさらに推し進めるために、特に「アジア太平洋水銀モニタリングネットワーク(APMMN)」や、「ネットワーク化、影響評価、能力強化のためのMOYAIイニシアチブ(MINAS<sup>マイナス</sup>)」を中心とした両国の様々な活動における緊密な協力を通して、水銀モニタリングの向上にむけて協働していきます。また、EPAと環境省は、アジアの途上国パートナーの水銀モニタリング能力の向上に関するGEFプロジェクト形成を支援します。EPAと環境省は、地域の水銀フローの精緻化に加えて、水銀問題に直面している第三国を支援するために、影響評価や意識啓発、水銀利用・排出削減策の促進についても協働していきます。

### 気候変動

EPAと環境省は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の最新の結果を踏まえて、気候変動に対応するために世界全体での温室効果ガスの排出抑制が必要であると認識しています。

EPAと環境省は第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)での良い成果に向けて行動するとともに、野心的な目標を伴った気候変動に対する取組の加速化や新たな国際枠組みの効果的な実施の構築の必要性を認識しています。法的手法、経済的手法、情報的手法を総合的に活用し、気候変動に対応していきます。

EPA と環境省は引き続き、そのような対策の実践に関する情報の共有・交換を行うとともに、世界適応ネットワーク（GAN）やアジア太平洋適応ネットワーク（APAN）、適応計画にかかる世界ネットワーク等の知見共有ネットワークを通じて、適応能力の強化を図っていきます。

### **地域の大気環境の管理**

EPA と環境省は、アジアの大気環境を改善する都市の職員を支援するため、アジア太平洋クリーンエアパートナーシップ（APCAP）、大気環境改善のための統合プログラム（IBAQ）、都市クリーンエアパートナーシップ（CCAP）との協力を推進します。例えば、IBAQに参加している都市は、CCAPが策定、実施する大気環境プログラムの手段を利用することが可能になり、その逆もまた可能です。

### **環境教育**

EPA と環境省は、環境教育を強化するために、人材育成強化、教材・プログラムの開発・整備、地域・国際ネットワークを通じた連携・支援体制の整備を含む情報を共有します。EPA と環境省はグローバル環境教育パートナーシップ（GEEP）、北米環境教育学会及び日本環境教育学会を通して意見を交換します。

### **汚染物質の除染**

EPA と環境省は、福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質に関連し、長期的な安全の確保に向け協力を継続します。EPA と環境省は、民生用原子力協力に関する日米二国間委員会の下、廃炉と環境マネジメントワーキンググループを通じて協力を続けます。このメカニズムの下で EPA と環境省は、現在進行中の環境回復活動と廃棄物管理に関連した取組の共有を続けます。さらに、EPA と日本の国立環境研究所は、研究者同士の交流、環境における放射性物質の挙動 / 曝露評価 / 汚染物質管理における研究の進捗と結果の共有を推進します。

### **子どもの健康と環境**

子どもは、成長発達過程において、行動と生理が大人とは異なることから、しばしば大人よりも汚染物質に対して脆弱です。EPA と環境省は、日本のエコチル調査\*のような既存及び現在進行中の科学と研究に寄与するために情報共有を続けます。

\*「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」

### **環境影響評価**

EPA と環境省は、アジア地域での環境影響評価の概念、課題、優良事例を共有するために協力します。次のステップとして、環境省はEPAの協力を得て、2016年5月に名古屋で開催される国際影響評価学会（IAIA）世界大会にあわせて、アジア地域の関係国と環境影響評価に関する会合を開催する予定です。